



関山岳会HP

令和8年度 関市アカデミック講座5 : 8月22日(土)

岐阜の山岳信仰と登山の始まり (関市の山と花の紹介や雑学をまじえて)



白山・御前峰(ごぜんがみね)にて



セッコク(2025.5.20撮影)



ズミ (2025.5. 1 撮影)

関山岳会 会長 鈴木久康

日本の山岳信仰

神仏習合時代 ⇒ 神仏分離令 神社

平安仏教 → 鎌倉新仏教 廃仏毀釈
南都六宗 講の始まり (明治)

神仏一体の信仰

神 ↓

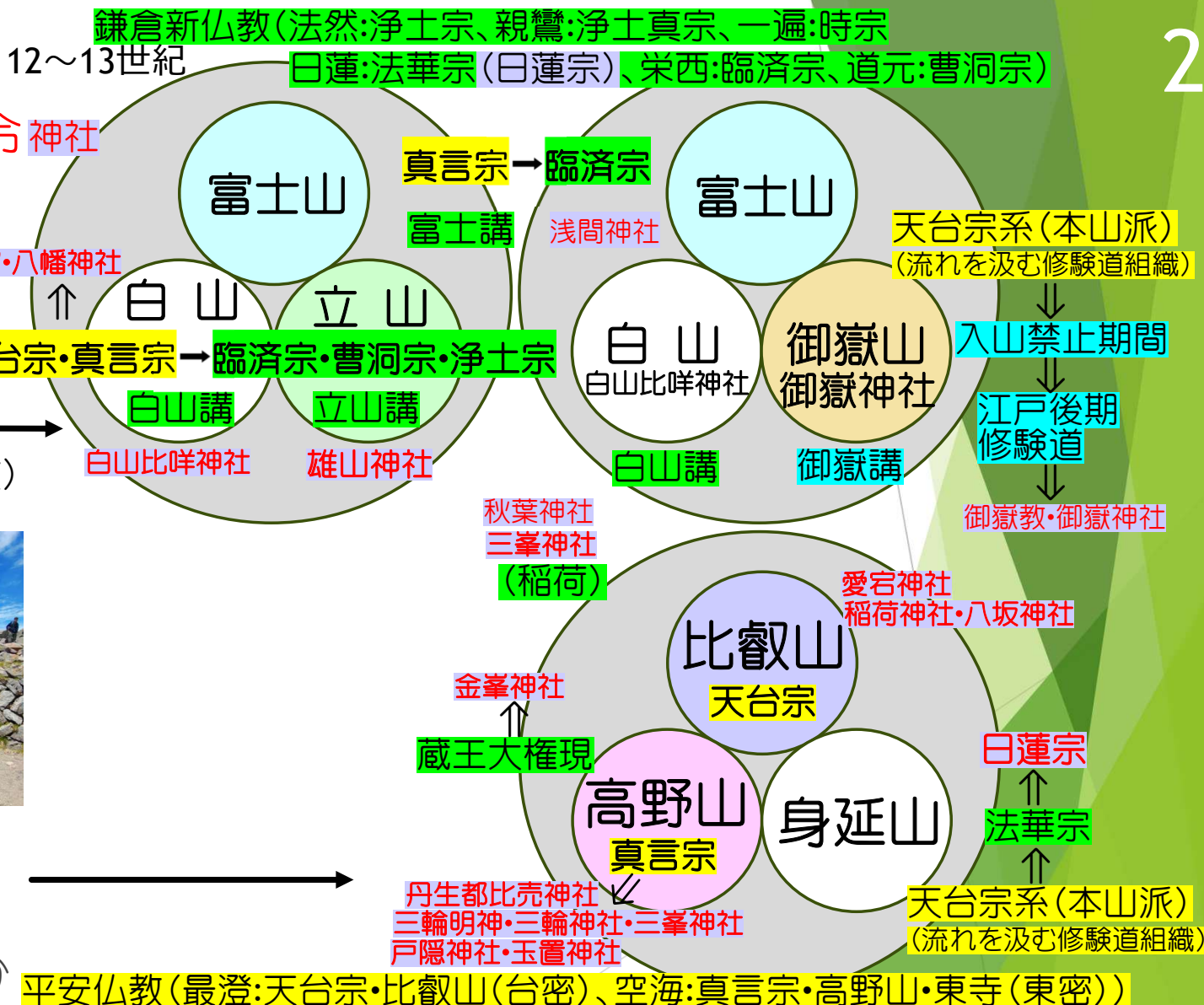
日本三霊山

鎌倉時代(鎌倉新仏教)
神道講社と仏教講社



日本仏教三大霊山

なぜ霊山を「さん」「ざん」と呼ぶのか



天台宗・真言宗
鶴岡八幡宮寺

鶴岡八幡宮

仏

八幡神は
源氏の守護神

弓矢の神・武神
都・城の鬼門方角

八幡宮・八幡神社

白山神社・御嶽神社の分布

● : 白山神社、● : 御嶽神社など御嶽信仰

洲原:洲原白山権現社(洲原神社)=白山前宮(さきみや)

別当:洲原寺観音院・洲原寺松寿院(天台宗⇒臨済宗)



長滝:白山中宮長滝寺(美濃馬場・長滝白山神社)=白山中宮

天台宗



石徹白:白山中居大神宮(白山中居神社)

別当:円周寺(天台宗)、住民は浄土真宗との重層信仰



天台宗系信者の宿泊客相手

石徹白大杉⇒神鳩宮(神鳩ノ中宿=宿坊)



銚子ヶ峰⇒一ノ峰～三ノ峰⇒別山平(美濃室=宿坊)



別山⇒白山(室堂)⇒御前峰(ごぜんがみね)

明治の神仏判然令(神仏分離令)・廃仏毀釈については後ほど

白山神社:全国約2000社中
岐阜県内に約282社
関市内に34社



時代	仏教に関する出来事(飛鳥-平安時代)	開山・その他
飛鳥時代 538-710	538-552 百済伝来仏教(宗派は無く、国家繁栄の源) 推古天皇が蘇我馬子に命じ百済へ修行者派遣 594 三宝興隆の詔(みことのり)発布、仏法(仏・法・僧)を崇拝・推進し仏教の興隆を国策(聖徳太子) 596 飛鳥仏教(百済伝来仏教の展開期) 飛鳥寺創建 600 推古天皇が遣隋使を派遣 609 小野妹子を隋に派遣/飛鳥大仏	701 立山(佐伯有頼)開山作り話? 実際は名もなき狩人 文武天皇勅命→国司父、佐伯有若が開山 東山道 702 御嶽山(役行者)修験
奈良時代 710-794 (平城京)	奈良仏教:国家の発展と安寧を願い国家建設・戦略の一環としての寺院形成……泰澄に創建を指示(勅命)⇒ 南都六宗 ・法相宗(ほっそうしゅう):薬師寺・興福寺 ・俱舎宗:学派 ・三論宗:大安寺 ・律宗(りっしゅう):唐招提寺(鑑真) ・成実宗:成実論・三論宗の付宗 ・華嚴宗:東大寺 792 桓武天皇が「漢音奨励の勅」(呉音をやめ、漢音奨励)	717 白山・別山(泰澄)開山 白山中宮長瀧寺創建(泰澄)/越前禪定道 718 白山中居神社(泰澄) 天王山禪定寺・牛頭天王社(ござてんのうしゃ)(泰澄) 719 神光寺・白山権現社創建(泰澄):下有知 721 白山前宮(洲原神社・泰澄) 大洞の山間堂を清水寺(現、願成寺)に改称(泰澄) 785 比叡山(最澄修行) 788 平安京の鬼門・比叡山に一乗止観院を建立(最澄)
平安時代 794-1185 (平安京)	804 最澄と空海が遣唐使となり唐で修行 平安仏教(山岳仏教)政治から離れ 山岳修行 = 仏教の政治関与を排除 ・天台宗:最澄(伝教大師) 比叡山延暦寺 ・真言宗:空海(弘法大師) 高野山(金剛峯寺) 東寺(教王護国寺) 1175 浄土宗(法然):知恩院…鎌倉仏教の始まり	806 宮島・弥山(空海=弘法大師)開山 816 高野山(空海=弘法大師)開山 832 加賀・美濃禪定道(767泰澄没後、浄定行者が完成) 862 恐山(慈覚大師)開山 1149 富士山(末代上人)開山

時代	仏教に関する出来事(鎌倉-明治時代)	開山・その他
鎌倉時代 1185-1333	鎌倉仏教 :武士、庶民向けの仏教 政治に関与させない 寺院の荘園化(寺領)、特権の自衛・維持の武装化 1191 臨済宗(栄西):妙心寺・南禅寺・建長寺他) 1224 浄土真宗(親鸞):本願寺 1227 曹洞宗(道元):永平寺・総持寺 1253 法華宗(日蓮):久遠寺・本能寺他 1274 時宗(一遍):清浄光寺	鎌倉幕府 は、奈良仏教・平安仏教を保護しつつ、精神的支柱として 禅宗(臨済宗など)を加護 美濃国の守護 であった 土岐氏 も臨済宗を加護し他宗から改宗が始まる 1274 身延山(日蓮上人)
室町時代 1336-1573	1541 大衆信仰登山の始まり: 富士講①=登山の始まり	(1336-1392 南北朝時代)
安土桃山時代 1568-1603	1582 本能寺の変 1600 関ヶ原の戦い 勝利以降に最初は軍用路として拡幅整備 1602 浄土真宗の本願寺から東本願寺を分立(第12代教如、徳川家康寄進)	徳川家康による五街道整備 1601-1602 東海道・中山道開始 宿場制度(伝馬制度)制定
江戸時代 1603-1868	1603 家康が征夷大將軍となる(右大臣) 白山講② 1614-1615 大阪冬の陣⇒大阪夏の陣で(豊臣家滅亡) 1635 徳川家光「武家諸法度」で参勤交代の制度化 1661 黄檗宗(おうばくしゅう)の開宗:隠元(いんげん)禅師 1726 立山講③ (立山室堂北棟の建立) 1797 御嶽講④ (普寛)	(秀頼は左大臣) 1624 東海道五十三次 完成 1694 中山道六十九次 完成 1784 御嶽山黒沢口(覚明) 開山 1792 御嶽山・王滝口(普寛) 開山
明治時代 1868-1912	1868 神仏判然令(神仏分離令)・廃仏毀釈 で神仏習合時代の終焉=山岳信仰の衰退 大権現⇒神社へ 寺の破壊、寺領の没収、別当(僧)⇒神主	

時代	白山禅定道が開かれるまでの出来事
奈良時代 710-794	702 文武天皇が病や災いを鎮めるため泰澄に祈禱をさせ収まった功績を高く評価 泰澄は「鎮護国家の法師」として朝廷から任命される 717 白山御前峰を開山、白山妙理権現社を創建(今の越前禅定道から登頂):泰澄 越前禅定道の平泉寺馬場(現在の勝山市・平泉寺白山神社):泰澄 現在の武芸八幡宮の地に大碓命(おおうすのみこと)を祀る:泰澄 (1653 白山神社を檀徒総代山田新右衛門によって権現山に建立、現在里社は圓通寺) 718 美濃禅定道(白山南道)の祭神として白山中居神社(別当寺:円周寺)を修復:泰澄 天王山の麓に牛頭(ごず)天王社(別当寺:天王山禅定寺=現在の大矢田神社)を創建:泰澄 洲原白山社=洲原白山権現社(現在の洲原神社)を創建(別当寺:洲原寺観音院):泰澄 能郷白山社=白山妙理権現社(現在の能郷白山神社)を山頂に創建:泰澄 749 聖武天皇勅命で恵利寺(武芸川町跡部)創建:行基(平安時代は真言宗・法相宗兼学道場) 767 泰澄没(86歳)、最澄(伝教大師)誕生 774 空海(弘法大師)誕生
平安時代 794-1185	803 遣唐使として唐に渡る前に最澄が横蔵寺(3年後に天台宗)を創建 804 四艘の船で遣唐使として空海と最澄が唐にて教学・修行(最澄805に帰国) (空海:長安の青龍寺で真言密教、最澄:天台山国清寺で密教) 806 遣唐使で持ち帰った教え、經典を元に桓武天皇の認定で天台宗を開宗:最澄 806 空海が唐から帰国 810 嵯峨天皇の加護の元、真言宗を開宗:空海 816 嵯峨天皇より高野山下賜の元、高野山の開創:空海 832 美濃禅定道の美濃馬場が開かれる(現在の郡上市・長滝白山神社) 加賀禅定道の加賀馬場が開かれる(現在の白山市・白山比咩神社)

時代	高賀山信仰と別山信仰の出来事
奈良時代710- 794	702 泰澄は鎮護国家の法師として朝廷から任命される 715 都(平城京)から鬼門の方角に当たる高賀山麓に都の異変を鎮めるため朝廷(現正天皇)の勅命で高賀神社の前身である神壇(しんだん)が設けられた(この時に泰澄が、この地を朝廷に進言した可能性がある) 717 元明天皇の勅命で715年から進められていた高賀山の麓に高賀山大行事権現を元正天皇の時に創祀……藤原氏の家臣団 泰澄は美濃禅定道の出来る前に、この地で藤原氏の家臣団に助言の可能性
平安時代794-1185  郡上市和良町の念興寺 「鬼の首」イメージ図 頭蓋骨は大人より 数センチ大きい 拝観料:250円/人 写真撮影NG	933 朱雀天皇の勅命で藤原高光が最初の妖魔(牛に似た鬼)を退治 939 高賀山大行事権現(神宮寺)の本社を再建 947 村上天皇の勅命で藤原高光が瓢ヶ岳の妖怪「さるとらへび」を退治して星宮神社(=粥川社、別当:粥川寺=真言宗)の創祠、稚児峯神社の建立 那比(なび)新宮(=高賀巖屋新宮)を創祠(本地仏:虚空蔵菩薩) 949 高賀山大行事権現(神宮寺)の再建、瀧神社、金峰神社、本宮神社を創建 「妖怪退治の完了」と「高賀六社の体制確立」の総仕上げとして再建) 959 神宮寺の別当、蓮華峯寺(天台宗)創建(西高賀山 蓮華峯寺と称される) 本地仏である虚空蔵菩薩を崇拝する高賀山信仰と共に同じ虚空蔵菩薩である別山信仰が盛んになるがその後、白山信仰と融合していく
室町時代1336-1573	正平年間(1346年~1370年) 高賀山大行事権現(神宮寺)の再建
江戸時代1603-1868	寛保・延享年間(1741年~1748年) 現在ある高賀山大行事権現本殿建立 安永年間(1772年~1781年) 高賀山大行事権現の改修
明治時代1868-1912	神仏稀釈令(神仏分離令の発令)により高賀山大行事権現から高賀神社へ

高賀信仰は元々、熊野信仰だった

(郡上市側に「那比新宮・本宮」や「杉原熊野神社」など、熊野信仰の拠点があった。)

「さるとらへび」のような妖怪(鵜:ぬえ) = この地域に広まる熊野信仰を傘に、朝廷に従わなかった、この地域の武装集団を村上天皇の勅命で藤原高光が947年に成敗したことを妖怪に例え、退治した伝説として残ったと考えられます。

その後は高賀信仰の主神、虚空蔵菩薩の別山信仰、白山信仰へと上書き習合されていきます。

宗教信仰の衰退と白山講の隆盛(別途P10参照)

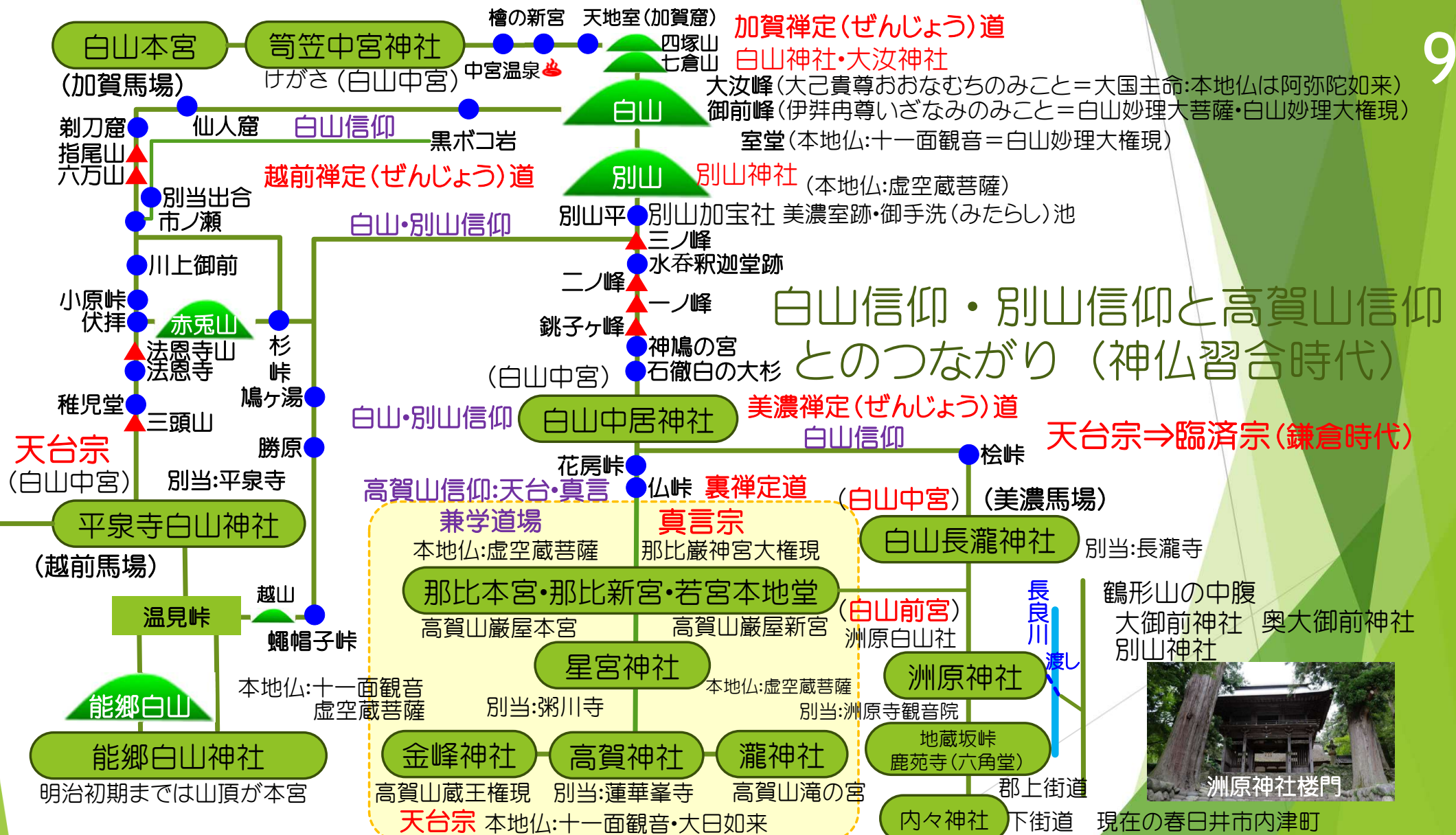
- 平安仏教(天台宗・真言宗)から鎌倉仏教(浄土真宗・臨済宗・曹洞宗)への普及・勢力拡大
- 戦国時代の戦乱による荒廃、織田信長による焼き討ち(越前平泉寺など)
- 1559年、東殿山(とうどやま=郡上八幡)合戦に巻き込まれて長滝寺が壊滅。
- 江戸幕府の寺社支配体制の確立により、修験者の武装組織化や山岳地帯での強力な自主的支配の制限。
- 明治以降の神仏分離令による別当寺の廃寺化と別当僧の神主化の進行
寺から白山神社を分離して各地に存続させた。
(旧、寺領内に白山神社を祀り、別当が神主となる)



- 講の始まり=御師(おし)による布教・宿泊斡旋者たちが、全国に白山信仰を広め、講組織を組織化⇒白山信仰が修験から形を変え、庶民に広く根付く=庶民の登山の始まり

高賀山伝説にまつわるウソと、なぞの真相は？

- ▶ ウソ① 933 藤原高光が妖魔(牛に似た鬼)を退治…藤原高光は、まだ生まれていない。
- ▶ ウソ② 947 藤原高光が瓢ヶ岳の妖怪「さるとらへび」を退治…まだ高光は幼少で勅命を受ける年齢にない。
- ▶ ウソ③ 平城京の鬼門に当たる地に高賀神社前身である神壇を設けた。…平城京の鬼門(北東)の方角で無い。
- ▶ 時代背景
 - ①泰澄が鎮護国家の法師として朝廷から任命
 - ②泰澄が美濃禪定道の前拠点として美濃の各地に設けていた。
泰澄は、この地を別山信仰(虚空蔵菩薩)の拠点とし白山信仰の呼び水としたかった。
 - ③藤原高光は20歳で出家して消息不明状態になる。
 - ④泰澄没後に、弟子の浄定行者が美濃禪定道を完成させている。
 - ⑤瓢ヶ岳を含めた、この地域は熊野信仰の場であり、これを守る豪族(山賊)を鎮める必要性があった。
- ▶ 真相の考察(私的):泰澄の唯一、成しえなかった意思を引き継いだ弟(三神安定=みかみやすさだ)の存在
弟、安定は泰澄の命により美濃の洲原白山権現社の別当(神官)となり、代々この地域の霊山信仰を統括。
高賀山を含むこの一帯の「怪異を鎮める」という行為は、これら三神安定をはじめとする泰澄の系譜の呪術師・神官たちによる豪族の成敗活動が、後に「藤原高光の妖怪退治」という、判りやすい、伝説譚(ばなし)にすり替わった。⇒泰澄の念願であった虚空蔵菩薩信仰の道場拠点として完成。
別山信仰拠点の完成により信仰体系の盤石化が図られ、白山信仰と習合して行き、美濃禪定道が繁栄。



中山道宿場町整備と講の始まり

1541 **富士講の始まり** 早くから関東を中心に道や御師宿坊が出来ていた

1600 関ヶ原の戦いで徳川軍勝利

1602 徳川家康が浄土真宗の武力暴走を防ぐため西本願寺と東本願寺に分裂

馬籠宿、落合宿、中津川宿(以上、中津川市)、大井宿(恵那市)

太田宿(美濃加茂市)、御嶽宿(御嵩町)、河渡宿(岐阜市)、美江寺宿(瑞穂市)
赤坂宿(大垣市)、垂井宿(垂井町)、関ヶ原宿(関ヶ原町)、今須宿(関ヶ原町)

1603 加納宿(岐阜市)・・・**徳川家康**が征夷大將軍となり江戸幕府の始まり

白山講の始まり

1604 大湫宿(瑞浪市)

元々、軍用道として家康が五街道の整備➡参勤交代

1610 細久手宿(瑞浪市)

1651 **鵜沼宿**(各務原市)

1694 伏見宿(御嵩町)・・・六十九次最後に追加整備

1726**立山講の始まり**

遅れた理由:当時の加賀藩が、この年から力を入れだし、芦畔寺宿坊や室堂の整備

1797**御嶽講の始まり**

遅れた理由:徳川尾張藩領とし材木その他藩流出を防止のため通行禁止

1867 大政奉還 翌1868年、明治天皇即位による明治時代の始まり

長良川・木曽川の渡船と白山信仰

江戸時代の長良川・木曽川は尾張藩の直轄管理
検閲機能と水運船主に課す「運上金」の徴収

水運業

美濃和紙・木材・年貢米・関の刀

藩外への流出を川の渡しで防いだ

渡しの権利と役職を川並衆(渡り衆)に与え

渡船料、木材川下税

船そのものにかかる税

荷物運送税の徴収

渡船料金12～16文の
3/4は運上金(通行税)

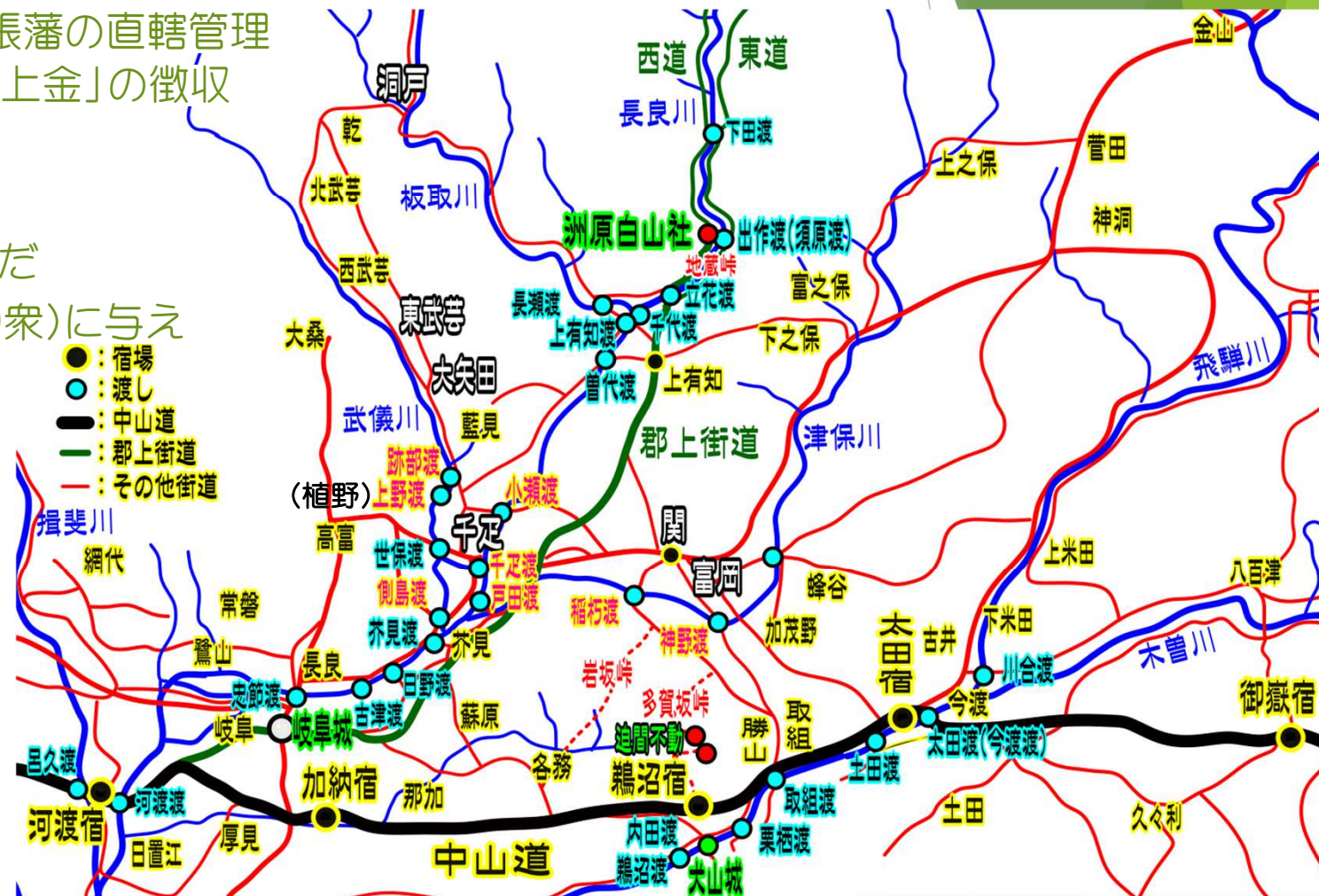
↓
尾張藩の財政を支えた

昼間は渡船、シーズン夜は鵜飼

岐阜の鵜飼

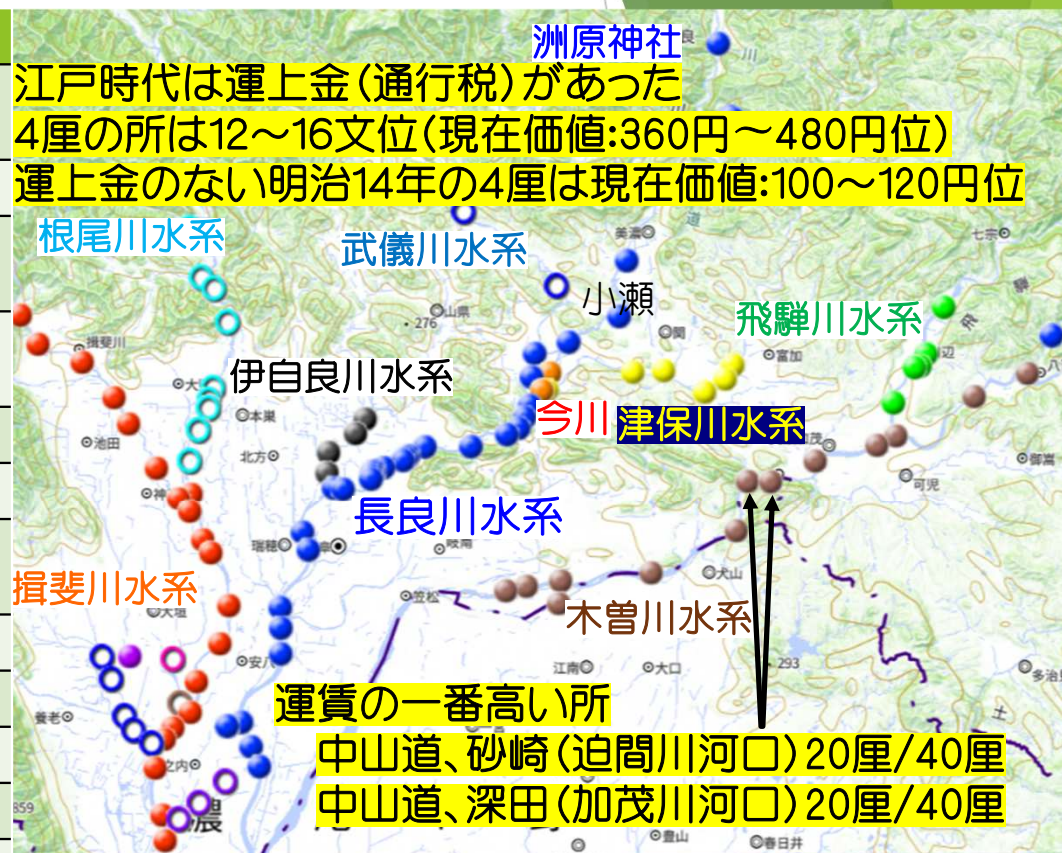
小瀬の鵜飼

犬山の鵜飼



関の津と県内の各水系の津分布と白山講 (出典:渡船場乗船荷船取調書から抜粋) 12

川	津名	対岸	運賃(厘)	船
郡上川(長良川)	小瀬	小瀬ー池尻(鮎の瀬橋)	人4,馬8	馬船 鵜飼形
	千疋	千疋ー小屋名(千疋大橋)	人4,馬8	馬船
	世保	戸田ー岐阜市世保(よやす) (武儀川河口)	人4,馬8	鵜飼形
	側島	側島ー岐阜市溝口(岐関大橋)	人4,馬8	渡船 鵜飼形
今川	保明	保明ー上白金(保土島橋)	人3,馬6,荷	渡船
	戸田	戸田ー上白金(今川橋)	人4,馬8,荷	渡船
武儀川	跡部	跡部(南武芸橋) ●明治14年頃記録には橋が有り、消滅	人馬荷 (運賃不明)	渡船
	千疋	千疋ー岐阜市春近古市場(千疋橋)	人3,馬6	鵜飼形
津保川	奈良屋	肥田瀬ー富加町高畑(富津橋)	人2,馬4	馬船
	傳馬	肥田瀬(新富津橋) 夏季のみ	人2,馬4	馬船
	荘中	倉知(旧庄中橋)	人2,馬4	渡船
	河原田	西田原ー肥田瀬(田富橋)	人2,馬4	鵜飼形
	稲口	稲口ー清水町(稲口橋) 夏季のみ	人2,馬4	馬船
	牛子	芥見ー下白金 (旧名鉄美濃町線の橋付近)	人2,馬4	鵜飼形 人馬船



徳川尾張藩は橋を作らせずに渡船、船運で財力UPと安全保障上の優位性を確保していた。
明治以降は運上金(通行税)廃止で1/4になった。

出典:運賃は明治14年頃のもの:「岐阜県道路史」(平成4年11月18日、(財)岐阜県建築技術センター発行による)

NHK大河ドラマ「豊臣兄弟」での川並衆

●蜂須賀正勝(通称:小六)役:俳優の高橋努が登場

海東郡蜂須賀村(現在のあま市)生まれの川並衆頭領(現あま市付近の豪族)

正勝は阿波徳島の大名(のちに蜂須賀家は徳島藩主約18万石)となる

→秀吉の天下統一前の天正14年(1586年)に病没→蜂須賀家は江戸時代も徳島藩25万石の藩主

●前野長康(蜂須賀正勝と義兄弟の契り・坪内利定の義兄)役:俳優の渋谷謙人が登場(現江南市付近の豪族)

長康は但馬出石城主(約11万石数の大名)へと大出世

→豊臣秀次(秀吉の甥)失脚事件に連座して文禄4年(1595年)に切腹、御家断絶

●坪内利定は、ドラマには出てこない(前野長康の義弟)・・・分家した家系の末裔に坪内逍遙がいる 葉栗郡松倉(現在の各務原市川島町松倉)の生まれの川並衆(現各務原市川島付近の豪族)

木下藤吉郎による墨俣城築城の際、木曾山中より木材を流し、松倉にて陸揚げ、加工をしてから再び川に流し、墨俣に送る重要な役割を果たした人物

鵜沼城開城でも川並衆の利点を生かし手柄を立てた

しかし、秀吉が利定の軍功を他人の軍功と見誤った事などから、その後は秀吉とは不仲となり浪人

関ヶ原の合戦の時は家康軍の本体で鉄砲隊を率いた

美濃羽栗郡・各務郡20村の6,500石の大身旗本(たいしんはたもと)＝将軍直属



丸に州浜紋

明治の神仏判然令(神仏分離令)・廃仏毀釈と白山講

- ▶ 日光「輪王寺」⇒「東照宮」 & 「二荒山神社」の2社と「輪王寺」の1寺に分離
- ▶ 奈良「春日社興福寺」⇒「興福寺」と「春日大社」に分離
- ……こういった理由から寺院のすぐそばに神社が多い

白山信仰の変化

- ▶ 「白山本宮 白山寺」⇒白山比咩神社となり別当寺の「白山寺」は廃寺
- ▶ 「平泉寺」⇒「平泉寺白山神社」となり別当寺の「平泉寺」は廃寺
- ▶ 「白山本地中宮 長滝寺」⇒「長滝白山神社」と「長滝寺」に分離
- ▶ 「天王山禅定寺(牛頭天王社)」⇒「大矢田神社」となり「禅定寺」は廃寺

現在の楼門は当時の山門(仁王門)

- ▶ 「洲原寺(しゅげんじ) 観音院」⇒「洲原(すはら)神社」となり別当寺の「洲原寺」は廃寺

長良川に向いて建つ楼門が当時の「洲原寺観音院」の山門(仁王門)

廃寺となった別当寺の僧(別当)たちは神社の神主に、修験僧は白山講(または洲原講)の御師へと
神仏分離令・廃仏希釈とともに白山登拝の拠点・白山信仰の拠点としての ↓
役割が無くなる＝仏教的信仰から薄れていく。 民間主体の白山講から登山が盛んになっていく

山の名前と呼び方(日本千名山調べ)

日本の山には山、岳・嶽、峰・峯・嶺などの名前があり、呼び方にも違いがあります。

山	呼び方	山数	割合%
	やま	346	34.6
	さん	155	15.5
	ざん	64	6.4
	せん	17	1.7
	ぜん	3	0.3
	うら	1	0.1

峰	呼び方	山数	割合%
	みね	18	1.8
	ぽう	3	0.3
嶺	呼び方	山数	割合%
	ほう	3	0.3

峯	呼び方	山数	割合%
	みね	2	0.2

嶺	呼び方	山数	割合%
	れい	2	0.2
	うね	1	0.1

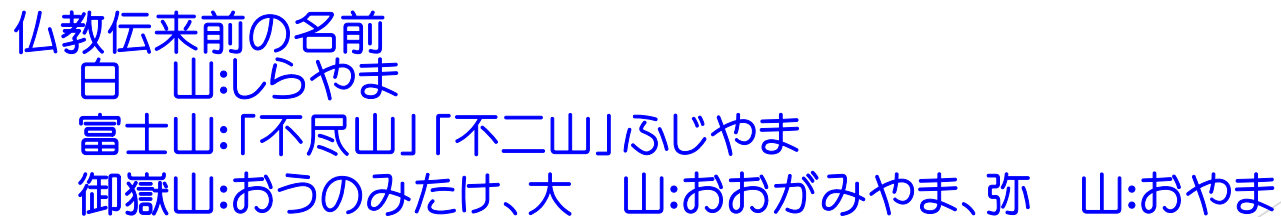
岳	呼び方	山数	割合%
	だけ	279	27.9
	たけ	69	6.9
	たき	1	0.1
嶽	呼び方	山数	割合%
	たけ	1	0.1
	だけ	1	0.1

その他	呼び方	山数	割合%
	※	37	0.4

※その他の呼び方

平、岩、原、高原、森、富士、丸、杭
ヌプリ、伏、巔（てん）、上、烏帽子
門、尾、ドッキョウ、天井、塚

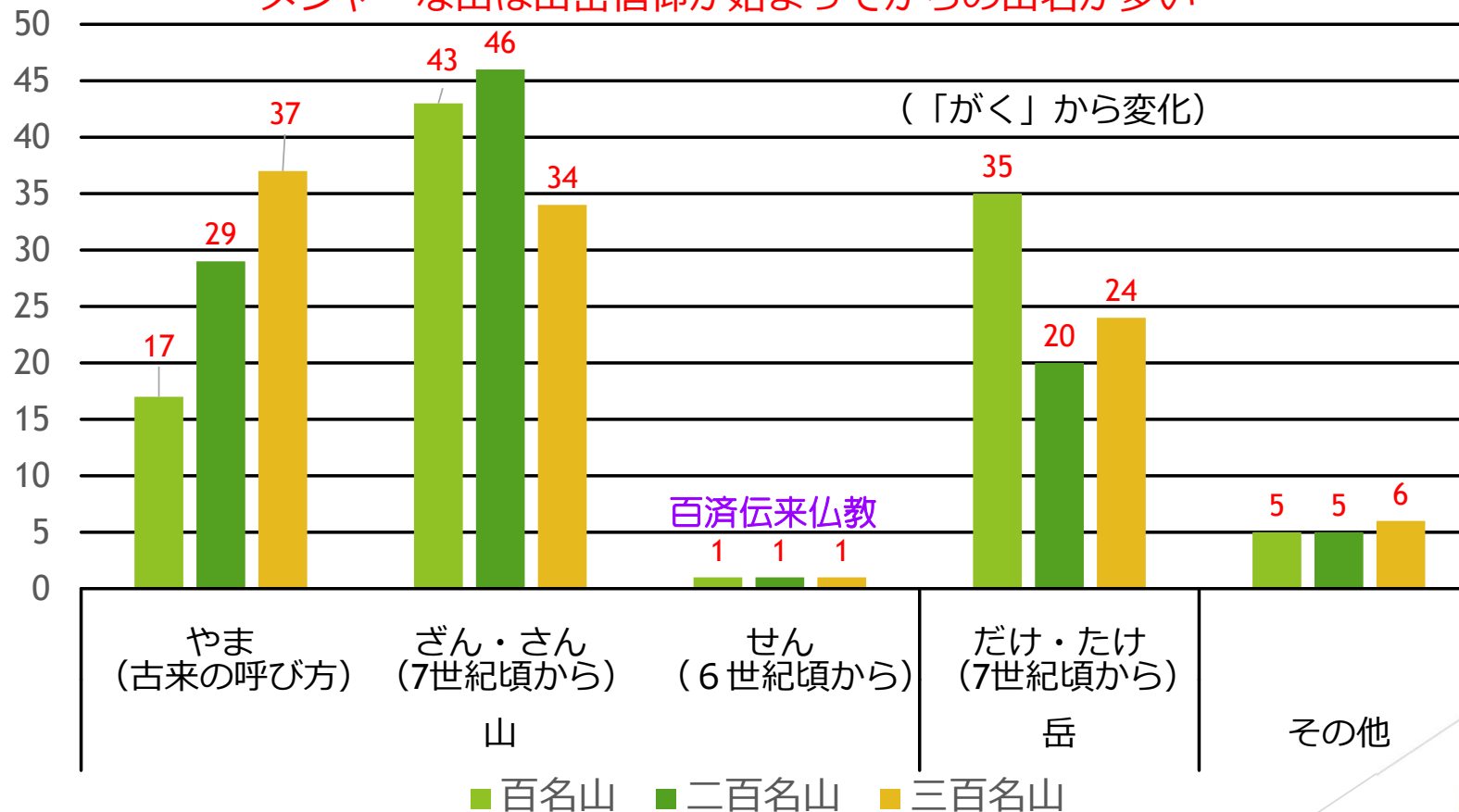
山の名前は仏教伝来と密接な関係



漢音が正式に使用奨励:飛鳥時代終盤の792年 桓武天皇が「漢音奨励の勅」

山の呼び方と傾向(日本百名山～三百名山の場合)

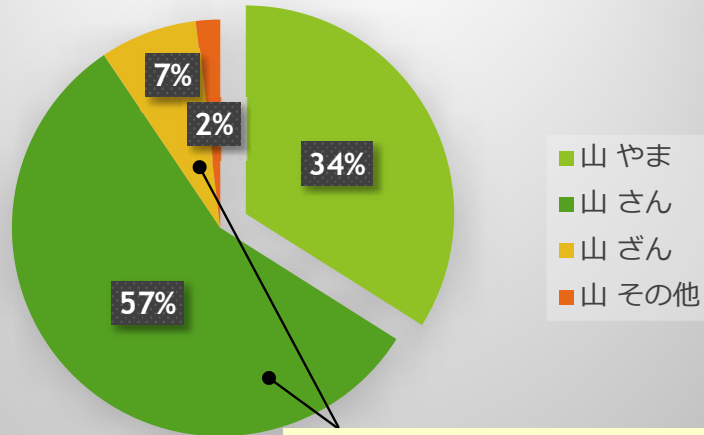
メジャーな山は山岳信仰が始まってからの山名が多い



山号例
比叡山延暦寺

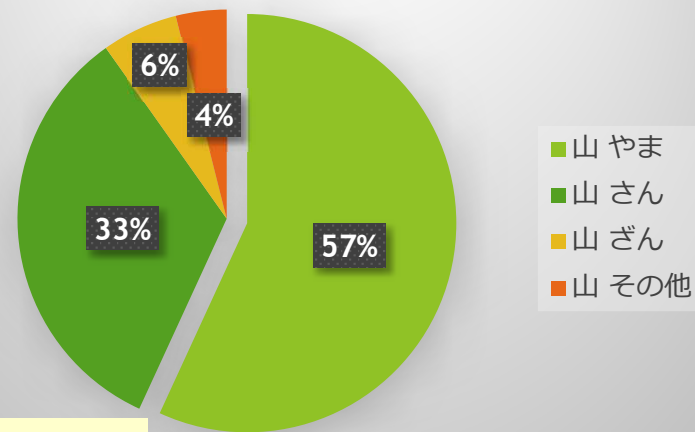
「ざん・さん」が多いのは寺院等で使われる「山号」(寺院の所在地を示す役割)に由来

日本百名山

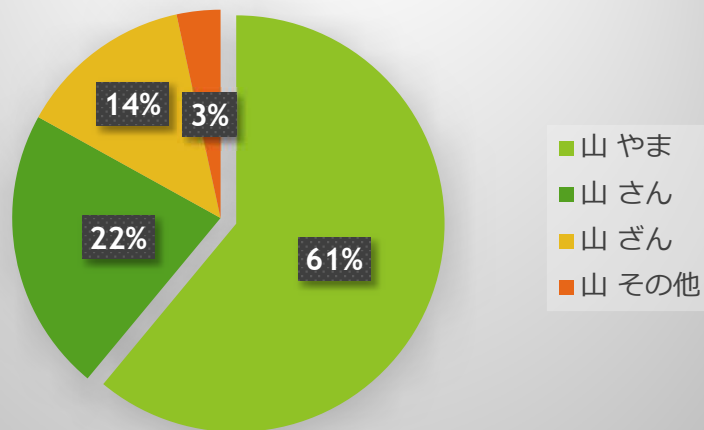


主な山岳信仰の山が殆ど入っている

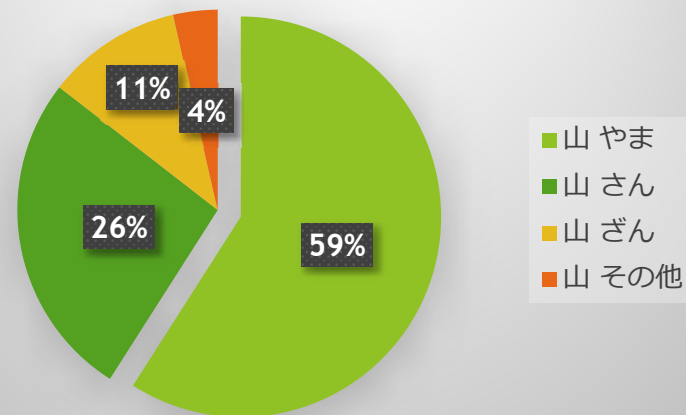
日本二百名山



日本三百名山



日本千名山



なぜ呼び方に違いがあるのか

- ▶ 元々、日本では**大和言葉(和語)**で「やま」と称していた

⇒仏教の伝来と共に中国から伝えられた時の読み方

呉音(ごおん) :「せん」、「ぜん」

漢音(かんおん) :「さん」、「ざん」

神道(しんとう)や道教(どうきょう)、陰陽道(おんみょうどう)などが混じり合い確立された山岳信仰の神仏習合時代となり、山頂には祠・神社、堂・仏閣がある山が多くあります。寺院の山号にも「さん」が用いられています。山岳信仰がある山でも、仏教が入る前に付いていた山名は「やま」をそのまま使用していることが多くあります。

- ▶ **呉音**:漢音が伝わる前の6世紀頃に入ってきた日本漢字音(音読み)の一つで、建康(今の南京市)付近の漢字音とも言われていて、漢音が伝わる前に、すでに日本に定着していた漢字音を言います。

(朝鮮半島の百済を経由した僧侶や儒教学者による)

- ▶ **漢音**:日本漢字音(音読み)の一つで、7~8世紀頃、奈良時代後期から平安時代の初め頃までに、遣隋使・遣唐使や留学僧・学問僧などにより伝えられた音を言います。中国唐時代の中頃の長安地方の音韻体系を多く反映。
(道慈・空海・最澄など)

- ▶ 名前が付けられた順番
古来から呼ばれる「**やま**」が一番古く、2番目に古いのが呉音で呼ばれる「**せん**」「**ぜん**」で、最後に入ってきた漢音で呼ばれる「**さん**」「**ざん**」
- ▶ 「**岳**」は、呉音、漢音ともに「**がく**」と呼び中国では、ごつごつした岩石でできている高い山を言い、仏教では徳の高さを表す言葉とされます。
これも山岳信仰と共に入ってきたものですが「**たけ**」「**だけ**」「**たき**」は日本の読み方に変わったもので、いわゆる訓読みです。
- ▶ 「**峰**」「**峯**」は大和言葉(和語)が「**みね**」ですが、これは漢音で「**ほう**」「**ぼう**」呉音で「**ふ**」「**ぶ**」「**ぶ**」と言います。 他には「**うね**」とも呼ぶ山もあります。
意味としては独立した山の一番高い所、山の尾根の突き出した部分、山全体を指す場合も元々の意味合いとして「**峯**」は木の秀つ枝(ほつえ)に神霊の降る形で、鉾杉などの上に神が降るとされていたと考えられ、そのような木のある山を峰という場合があり、石徹白の大杉がそれに当てはまり、その上にある銚子ヶ峰が当てはまります。
- ▶ 「**丸**」は、古い朝鮮語で「**山**」「**峰**」を指す (마루 / maru) に由来すると言われ、渡来人などが日本に入ってきた際に使われはじめ「**丸**」の字があてられたと考えられています。
- ▶ 「**巔**」は漢音、呉音共に「**てん**」と読み、大和言葉(和語)で「**いただき**」と読みます。
(西吾妻山の「西大巔」)